

2020年8月7日

2020年度 鉄道事業設備投資計画 安全対策関連など 総額約175億円

京浜急行電鉄株式会社（本社：横浜市西区，社長：原田 一之，以下 京急電鉄）は，鉄道事業における最大の使命である安全・安定輸送を確保のため，安全対策投資を継続的に実施しており，2020年度は，総額約175億円（うち安全対策設備投資は約148億円）の設備投資を行います。なお，新型コロナウイルス感染拡大の影響により，計画を変更する場合がございます。

主な内容としては，お客さまのホームからの転落や列車との接触を防止するため，新たに平和島駅，京急鶴見駅，京急東神奈川駅，日ノ出町駅，追浜駅および汐入駅でホームドアの設置工事を進めてまいります。

また，新造車両を4両2編成，計8両を導入し，より快適な車内環境の提供を目指してまいります。さらに，信号保安設備の増設・更新および電気施設の更新改良や高架橋の耐震補強や橋梁補修などの防災・地震対策を継続し，安全性の向上に努めます。そのほか駅のエスカレーター更新，駅舎の改修など改良工事を実施し，お客さまの利便性向上を図ります。

加えて，2020年4月1日に都市計画事業の認可を取得し，本格的な工事着手となる品川駅付近の連続立体交差事業，また現在設計等を進めている羽田空港第1・第2ターミナル駅引上げ線新設工事など，将来の成長に向けた投資についても着実に進めてまいります。

設備投資計画の詳細は，別紙のとおりです。



ホームドア設置（京急川崎）



品川駅付近連続立体交差事業（該当踏切）

設備投資計画の詳細について

1. 安全対策関連

約 148 億円

(1) ホームドア設置工事

約 17 億円

お客さまのホームからの転落や列車との接触を防止するため、ホームドア設置工事を進めてまいります。

ホームドア設置

対象駅：平和島駅，京急鶴見駅，京急東神奈川駅，日ノ出町駅
追浜駅，汐入駅

(2) 変電所・電気保安設備などの電気施設の更新・改良

約 21 億円

信号保安設備の増設・更新をはじめ，電力・通信など諸設備の更新，改良を行います。

(3) 防災・地震対策

約 9 億円

防災・地震対策強化のため，高架橋の耐震補強工事のほか，法面防護・トンネル補修・橋梁補修・浸水対策を行います。

(4) 駅改良工事（耐震補強含む）

約 19 億円

雨天時の混雑緩和のため，ホーム上家延伸を行うほか，駅舎の改築を行い，安全性・利便性向上を図ります。

ホーム上家延伸

対象駅：京急東神奈川駅

エスカレーター更新

対象駅：新馬場駅，金沢文庫駅

駅舎改築

対象駅：花月総持寺駅

トイレ改修

対象駅：金沢文庫駅，逗子・葉山駅

(5) 新造車両と車両更新

約 26 億円

安全・快適にご利用いただけるよう 1000 形を新造し，既存車両の更新・改造を行います。

●車両の新造 1000 形 8 両

●車両の更新 1000 形 8 両

(6) 連続立体交差化工事

約 17 億円

大師線連続立体交差事業（第 1 期）工事は，暫定整備区間として東門前駅～小島新田駅間の地下化切替が完了，引き続き地上の整備を進め，さらに品川駅付近の連続立体交差事業に着手してまいります。

(7) その他安全対策

約 39 億円

運行管理支援システム，工場，検車庫の改良・改修，ほか

※国や地方自治体との共同事業も上記の中には含まれておりますが，金額標記は当社負担分です。

2. その他

約 27 億円

以上